

# 没後150年“ ロッシーニの世界 ” 第2回

## プログラム

今日は、没後150年の記念の年に当たるイタリアの作曲家ロッシーニを特集するシリーズの第2回です。ロッシーニは1830年以降オペラを書くのはやめてしまい、宗教曲の他、歌曲やピアノ曲・室内楽などの小品を数多く残しましたが、自らそれらを151曲からなる「老いの過ち」という小品集にまとめました。今回の3曲もこの中に含まれている魅力に溢れた歌曲です。1829年作の「ウィリアム・テル」はロッシーニ最後のオペラ作品で、スイス独立を目指す勇敢な人々の物語。序曲だけがあまりにも有名ですが、優れたアリア、合唱、バレエ音楽を持ったグランド・オペラの傑作です。弦楽のためのソナタは、長らく12歳の時の作品と言われてきましたが、最近の研究で16歳の時の作品である事が明らかになってきました。これはロッシーニ自身が自らの天才ぶりを宣伝するために、譜面のタイトルに付けられた数字を入念に書き換えた捏造であったと分かったのですが、これが16歳の作品であってもロッシーニの豊かな才能に溢れた佳曲である事には変わりはありません。歌劇「どろぼうかささぎ」は1817年の作品で、序曲はしばしば演奏される名曲です。スターバト・マーテルは1841年49歳の時に完成させた作品で、十字架にはりつけにされた息子キリストを聖母マリアが嘆き悲しむ心情を歌った聖歌。美しい旋律から奏でる独唱と合唱、劇的で起伏に富んだオーケストラなど、数あるスターバト・マーテルの中でも最高傑作に挙げられる名作です。今日は音楽学者でもあり、ロッシーニの研究、演奏の権威としても著名なイタリアの名指揮者アルベルト・ゼッダ (1928～2017) の最晩年の名演でお聴きください。 壮麗

\*\*\*\*\*

ジョアキーノ・ロッシーニ (1792～1868):

歌曲 “昔の人へのアリエット” (「老いの過ち」第11巻「控えめな小品」から)

歌曲 “ティロルの孤児” (「老いの過ち」第2巻「フランス風のアルバム」から)

歌曲 “競艇前のアニゾレータ” (「老いの過ち」第1巻「ベネツィアの競艇」から)

チェチーリア・バルトリ (ソプラノ) / アンドラーシュ・シフ (ピアノ)

(1993.7.24 ザルツブルク祝祭大劇場でのLive)

歌劇 “ウィリアム・テル (ギョーム・テル)”

序曲 第1幕～婚礼の合唱とバレエ音楽

第2幕～“暗い森”(マティルド)

第4幕 “先祖より受け継ぎし家”(アルノール) / フィナーレ

ジョルジョ・ザンカーロ (バリトン...テル) / チェリル・ステューダー (ソプラノ...マティルド)

クリス・メリット (テノール...アルノール) / フランコ・デ・グランディス (バス...メルクタル)

リッカルド・ムーティ指揮ミラノ・スカラ座管弦楽団 / ミラノ・スカラ座合唱団

(1988.12 ミラノ・スカラ座でのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

弦楽のためのソナタ第3番八長調

ウラディミール・スピヴァコフ指揮モスクワ・ビルトゥオーゾ室内管弦楽団

(1994.4.14 王子ホールでのLive)

歌劇 “どろぼうかささぎ” 序曲

ジャンルイジ・ジェルメッティ指揮シュトゥットガルト放送交響楽団

(1993.5.27 ヘーゲルザールでのLive)

スターバト・マーテル (悲しみの聖母)

序奏 “悲しみの聖母はたたずみ” / 第3曲 “だれか涙を流さない者があろうか”

第6曲 “おお聖母よ” / 第9曲 “肉体は死んで朽ち果てるとも” / 終曲 “とこしえにわたり”

砂川涼子 (ソプラノ) / 向野由美子 (メゾ・ソプラノ) / 村上敏明 (テノール) / 伊藤貴之 (バス)

アルベルト・ゼッダ指揮東京フィルハーモニー交響楽団 / 藤原歌劇団合唱部

(2016.12.1 オーチャードホールでのLive)